

令和5年度いの町子ども・子育て会議議事録

1. 日時 令和6年2月20日(火) 19:00~

2. 場所 いのホール

3. 出席者

委員：石川正康、岡林沙織、倉繁迪、小泉清人、上妻智子、才賀敬、坂本弥生、中野登志子、西内景介、宮田幸子、山崎水南実、吉門美之、吉松美奈子

(欠席者 井上美佐子)

事務局：教育委員会 黒瀬教育長、宮脇次長、岡田補佐、野口生涯学習係長、澁谷幼保支援係長、島崎

本川教育事務所 山中所長

ほけん福祉課 戸梶補佐、大川補佐

傍聴者：1名

事務局：定刻になりましたので、令和5年度いの町子ども・子育て会議を始めさせていただきます。いの町教育委員会事務局の澁谷と申します。どうぞよろしくお願いたします。いの町子ども・子育て会議設置条例第6条第2項により、委員過半数が出席し会議が成立となります。本日は委員14名中13名出席しているため、会議は成立しています。傍聴される方が1名いらっしゃいますが、許可してよろしいでしょうか。はい、傍聴は許可されました。傍聴の方につきましては、会議終了後に資料を回収させていただきますので、ご了承をお願いします。初めに、令和5年いの町子ども・子育て会議の開催にあたりまして、黒瀬渡教育長よりご挨拶を申し上げます。教育長、よろしくお願いたします。

黒瀬教育長：皆さん、こんばんは。令和5年度いの町子ども・子育て会議の開会にあたりまして、ひとことご挨拶を申し上げたいと思います。皆様方におかれましては、平素から、いの町の教育、また、保育行政につきまして、格別のご理解、ご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。また、夜間の会議であり、大変ご多忙な中、お集まりをいただきまして、ありがとうございました。心から感謝を申し上げます。

さて、いの町では、令和7年度から令和11年度までの5年間の計画、第3期いの町子ども・子育て支援事業計画の策定に向けまして、本年度は、就学前児童から小学生までの保護者を対象とさせていただいたニーズ調査を実施しております。これらの調査の結果を勘案しながら、来年度は委員の皆様方のご意見を頂戴しながら、この子ども・子育ての第3期の支援事業計画を策定してまいりたいという風に考えてございます。そういった意味から、来年度は、この子ども・子育て会議を、年間3回程度実施するという予定で計画をさせていただいておりますので、ご承知おきください。なお、今後の会議の出席につきましても、ぜひご協力をよろしくお願いをいたします。

本日は、事務局より令和5年度の実績の報告等をさせていただきますので、それぞれの委員のお立場から、ご意見やご質問等を頂戴できればと存じております。本日はどうかよろしくお願いいたします。

事務局：続きまして、初めての委員さんもいらっしゃいますので、順番に自己紹介をお願いいたします。

教育支援センター教室室長の石川でございます。よろしくお願い致します

岡林です。移住者です。高知に越してきてもう13年目になります。よろしくお願い致します。

仁淀病院の小児科の倉繁です。よろしくお願い致します。

子育て支援ソーシャルワーカーの上妻です。よろしくお願い致します。

いつもいつも会議が長くなるんです。長引かせててご迷惑かけてる才賀でございます。よろしくお願い致します。あ、今回も用意してますんですいません。

中野です。よろしくお願い致します。

ファミリーサポートのまかせて会員をしております西内と言います。よろしくお願い致します。

民生委員の中には主任児童委員という専門職があるんですけど、そちらさせていただいてます宮田と言います。よろしくお願い致します。

皆さん初めまして。吾北の保護者代表で来ました山崎水南実と申します。今日はよろしくお願い致します。

こんばんは。認定こども園ごほくの園長の吉門美之と言います。どうぞよろしくお願い致します。

本川へき地保育園長の小泉です。よろしくお願い致します。

伊野保育園で園長をします、坂本と言います。よろしくお願い致します。

天神保育園の吉松です。よろしくお願いいたします。

失礼します。いの町教育委員会事務局次長補佐を務めております岡田と申します。よろしくお願いいたします。

皆さんこんばんは。教育次長の宮脇と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

こんばんは。本川教育事務所と、吾北教育事務所で所長を兼務してます、山中と言います。よろしくお願いいたします。

こんばんは。私はほけん福祉課の方で、保健担当の課長補佐をしております。戸梶と言います。どうぞよろしくお願いいたします。

こんばんは。私は、同じくほけん福祉課の福祉担当の課長補佐をしております、大川と申します。よろしくお願いいたします。

教育委員会事務局生涯学習係の係長野口と申します。本日はよろしくお願いいたします。

教育委員会事務局幼保支援係長の澁谷と申します。よろしくお願いいたします。

事務局：それでは、お手元の資料の確認をお願いいたします。令和5年度いの町子ども・子育て課資料と書いてある事前配布資料、第2期のいの町子ども子育て支援事業計画、当日配布資料は、右肩に資料②、資料③と書いてある資料です。資料③につきましては、才賀委員から様式の送付を受けまして、ご依頼の数字を入れてご提供をさせてもらっているものになります。全て揃っていますでしょうか。

それでは、議事次第により会議を進めます。議事次第(1)会長、副会長の選任について会長、副会長の選任、選出をお願いしたいと思いますが、立候補や推薦等ございますでしょうか。立候補、推薦等ないようですので、事務局より会長、副会長候補の提案をさせていただきたいと思います。会長は宮田幸子様、副会長は石川正康様にお引き願いたいと考えておりますが、いかがでしょうか。(異議なし)

それでは、恐縮ではございますが、宮田委員に会長を、石川委員に副会長をしていただきたいと存じます。早速ですが、宮田委員さんには会長席に移っていただきまして、この後の議事進行をお願いいたします。

宮田会長：では、これから、会議を始めたいと思います。本来でしたら、会長というよりは、こちらでばーばーと言いたい方なんですけど。申し訳ありません。皆さんのご協力で、スム

一ズに会議ができたらと思っておりますので、ご協力よろしく願いいたします。それでは、議事次第の方に移ります。(2) 令和5年各事業実績報告について、事務局からお願いいたします。

事務局：実績報告に入る前に、資料の修正をさせていただきたいと思っております。資料の1ページ、(イ) 保育の、令和4年度の計画の見込み量の合計が誤っておりましたので、修正をお願いいたします。合計が544となっておりますが、530に修正をお願いいたします。それでは、令和5年間の各事業の実績報告をさせていただきます。現段階では見込の数となります。資料の1ページをご覧ください。計画のページ数が28、29ページになります。

教育、保育の提供実績です。令和5年度の実績見込みとしましては、3歳から5歳児の1号認定者が30名、3歳から5歳児の2号認定者が379名、0歳児が45名、1、2歳児が215名となっております。令和4年度と比べると、1号認定者は減少し、2、3号認定者は増加をしております。計画における見込み量と比べましても、1号認定者数は低く推移し、2、3号認定者数は高く推移をしております。

続きまして、2ページをお願いいたします。

地域子ども子育て支援事業実績について、順番に令和5年度実績見込みの報告をさせていただきます。計画のページ数は30ページからとなります。

まず、時間外保育事業についてご説明をさせていただきます。この事業は、保育園の開園時間11時間を超えて延長保育を実施する事業で、町内では伊野保育園、あいの保育園、神谷保育園で行っております。今年度は95名の実績見込みとなっております。

資料を見ていただくとお分かりの通り、令和2年度以降減少傾向となっていることが分かります。減少の要因として考えられるのは、コロナ禍以降、リモートワークが定着化し、通勤時間が短縮できた結果、早めにお迎えに来られる保護者が増えたことや、働き方改革の推進により保護者の残業時間が減ったことなどが挙げられるかと思っております。時間外事業の説明は以上になります。

事務局：放課後児童健全育成事業の、ご説明をさせていただきます。令和5年度の計画の見込み量につきましては、低学年は234人、実績の方が231人、高学年につきましては、計画の見込み量が86人、実績が69名ということになっております。以上です。

事務局：引き続きまして、子育て短期支援事業についてご説明をさせていただきます。令和5年度につきましては、計画の見込み量としまして、17になっております。この事業につきましては、主に、保護者の疾病など、あるいは育児疲れとか、そういったもので対応しております。件数っていうのは、比較的突発的なものになっております。今回の、令和5年度の実績見込みにつきましても、資料の提出期限の段階では0でしたが、今現在、10になっております。今後、実績見込みということで、10日を予定しております。以上です。

事務局：続きまして、地域子育て支援拠点事業についてご説明をさせていただきます。この事業では、乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所、ぐりぐらひろばを開設し、子育てについての相談、情報の提供、子育てに関する講座等を継続して行っております。令和5年度につきましては、計画の見込み量が585人、実績の見込みとしましては、584人という人数となっております。以上です。

事務局：次に、一時預かり事業についてご説明させていただきます。令和4年度から伊野幼稚園で実施をしております幼稚園の預かり事業の利用は、令和4年度は延べ668名でしたが、令和5年度の見込みは、延べ283名となっております。減少の要因としましては、就労等により教育時間以降の預かり保育を必要とする保護者が、令和4年度は実人数で4名程度おりましたが、令和4年度では2名程度に減少したことです。

事務局：続きまして、幼稚園以外一時預かり事業についてご説明させていただきます。幼稚園以外の一時的預かり事業は、町内ではあいの保育園と認定こども園えだがわで実施をしております。利用の理由としましては、里帰り出産での利用、短時間勤務の保護者の方の利用、保護者の方のリフレッシュなどとなっております。令和5年度は実績見込み数が600名となっております。

事務局：次に、病児・病後児保育事業について説明をさせていただきます。令和5年度の実績見込みは10名となっております。利用者の内訳は、0歳児が1名、1歳児が3名、3歳児が1名、4歳児が1名、5歳児が2名、残りの2名が見込み数となっております。利用時間は、最も短かった方で9時間、最も長く利用した方で11時間となっております。病後児の利用が必要となった疾病名としましては、溶連菌感染症、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、インフルエンザなどとなっております。計画における見込み量では、毎月3人の利用を見込んでおりましたが、令和5年度は10名の実績見込みとなりました。

事務局：続きまして、ファミリーサポートセンター事業です。ファミリーサポート事業は、子育ての援助を行いたいものと子育ての援助を受けたいものを会員として組織し、地域における会員同士が子育てに関する援助活動を行うことにより、助け合い、仕事と子育ての両立できる環境の整備を図り、児童福祉の向上、労働者の福祉の増進にすることを目的として行っておるものです。令和2年度の実績としましては33人、3年度につきましては94人、4年度につきましては130人で、今年度については150人を見込んでおります。増加の要因分析につきましては、令和2年度につきましては、コロナ禍のため利用機会が減ったため、極端な、利用者数の減となっております。3年度以降につきましては、関係部署等からの紹介であったり、乳幼児検診等での声掛け、あるいはお試し体験会の案内等で利用増が

見込まれ、利用増の傾向が続いているような状況になっております。

事務局：続きまして、妊婦検診事業についてです。これは、妊婦の健康の保持増進を図るため、妊婦検診を公費の方で実施する事業になっております。令和5年度の計画見込み業1415回に対しまして、令和5年度実績見込みが967回ということです。これは、妊婦の方の人数が減っているという、こういうトレンドになってきているという状況です。

事務局：続きまして、乳児家庭全戸訪問事業です。これは、生後4ヶ月頃までの乳児のいる家庭に保健師等が訪問しまして、子育て支援に関する情報提供や、そして養育環境等の把握を行う事業になっております。これが、令和5年度の計画見込み量が100名に対しまして、実績見込みが77人となっています。

事務局：続きまして、養育支援訪問事業です。この事業は、養育支援が特に必要な家庭に保健師、助産師が訪問しまして、養育に関する指導、助言などを行い、その家庭の適切な養育の実施を確保する事業となっております。この実績見込みが、年度で少しばらつきがありますが、令和5年度の計画見込み量50人に対しまして、実施実績見込みが36人となっています。

事務局：続きまして、利用者支援事業です。この事業は、すこやかセンターの方に「いの町子育て世代包括支援センターどんぐり」を子育ての総合窓口として開設しております。計画の見込み量は1か所で、令和5年度実績1か所ということになっております。以上は、今年度の実績見込みの報告になります。

宮田会長：事務局の方から、支援事業の実績について報告がありました。質問、もしくはご意見がありましたらお願いいたします。

才賀委員：質問と、それから、あの、配布のことなんですけども。昨年度、突然、質問をバラバラと喋っておりまして、あまり皆様に、ご迷惑をかけたことがありますので、今回は事前に事務局の方に、配布資料の配布を許可を得た上で、ま、普通はこんなことしないんですけど。あー、配布許可をした上で、あの、一次と二次に分かれて質問事項を用意しています。で、その資料を今、配布してよろしいでしょうかっていうのが1つの質問です。で、それ、質問事項は、その、配布して終わってから質問してかまいませんか。それからもう1つは、あの、傍聴席には、その一部を渡していいんでしょうか。その2つをお願いしたいと思えます。

事務局：はい。あの、配布をしていただいて構いません。

才賀委員：それでは、すいません、大きく、2つに分かれて説明、質問したいと思っております。1つ目は、事前に、私の方で、先に送っていただいた資料を、数値換算をしようと思った時に、数字がずれたんですよね。それは、先ほど、澁谷係長から説明されたように、保育の4年度の、合計のやつは、このページで出すと、12ページに、左の方の真ん中に色で塗ってるんですよね。で、それについての、あの、しましたら、大したことじゃないということ言われましたので、あ、そうですかっていう感じなんですけど、私は、14日というのは、すいません、3ページのところなんです。3ページのところで、令和4年度、令和5年、それから保育のやつを順番にずらして書いております。というのは、どういう風に変わっていったか、そのパーセンテージを書かないと、これからの、来年のそのニーズ調査の時の基本になるんで、これはそれで大事だと思って書いてます。この原因は何か言ったら、すいません、ちょっと長くなりますけど、高知新聞のいの町議会の、記事を見たんですよ。30名ほど保育園に入る子どもが居るのが、できなかった、30名です。入れなかった、入れなかった。で、そのことについてやっぱり分析していかないと、施設でないのか、それとも保育者がいなかったのかっていう、そこはちゃんとして決めていかないと、ニーズ調査の時に、あの、ここにも、4ページの下に書いてますけど、地域的な人口的な交通事情、その他社会条件、保育、教育を提供するので、その、整備の状況その他を総合的に勘案して作るって書いてますけど、やっぱりこれ地域別になってないんですよ。そのために事前に、お願いしまして、あの、地域別じゃなくて園別をお願いしたわけ。やっぱり本川と吾北とは違う部分があって。それから、前、以前に、長くなりますけど、神谷保育園の実態調査したことあるんですけど、そこも違うんですよね。人口と動体調査と均等の人数が違ったんです。で、そういうこともありまして、地域別じゃなくて個別にお願い、資料を整うと、あとは、データとしては、さっきこう言われたように、実績率とか確率というのが分かりますので、そこで流れがわかるんじゃないかと思ひまして、これでいいでしょうかと思ひました数字です。で、あとの質問については、1番最後の7ページにありまして、7ページのところで、a、b、c、dって書いて、書いてまして、これは報告の時にしてもらいたいということでしたので、大半のことはこれで、報告しております。だけど、1番気になったのは、時間外保育事業の根拠なんですよね。なぜこれほど減ったのかって言った時に、私はちょっと違うんじゃないか、どこのデータでそういう子どもが減ったというのが言えるんでしょうかっていうのが、根拠を示してもらわないと納得できないなという風に思ひます。それが1問目の質問です。それから次に、同じく別のもので、これすごく量多いんで本当申し訳ないんですけど、その中でやったのは、あの質問、1から3までありますけれども、どうしまししょう、一遍にやった方がいいか、個別でやった方がいいかな、ちょっと時間がありますけど、と思ひますが、どちらでいいんでしょうか。えっと、事務局には事前に、メールで全部送りましたけども、ちゃんと日付も送って出していますけど。

宮田会長：さっき、お話があった幼稚園の預かり事業の、えっと、少なくなった原因、そこをまず終わらせましょうか。それは事務局の方から 根拠をお願いしたいという、委員さんから出てますので、それをまず答えしてもらって、それから次の質問。

事務局：時間外保育事業はですね、6 時以降にお迎えに来られる方の預かりになりますので、それが減った要因っていうのは、早めにお迎えに来れるようになったということでご説明をさせていただいたんですけど。

才賀委員：それはアンケート調査ですか。それとも実地調査ですか。

事務局：アンケート調査等は実施をしておりません。

才賀委員：え。それは俗に勤ですよ。今回もちょっとないんですけど、園評価の資料が。去年も今年も出てないんですよ。園評価の毎年出してくださいっていう、園評価のリストも出てないんですけど。だから、今のいうのは、僕はもうちょっと分析していかないと、ニーズ調査の時にちゃんとその人数を、なんで減ったのかっていうのが僕はちょっと違うんじゃないかなと思ってまして。で、それで、後のこともありますので、それはそれでおきますけれども、やっぱり論拠というのが、根拠という、その面で説明していかないと。例えば次のやつで、伊野幼稚園はですね、非常に歴史的のある伊野幼稚園がですね、昭和 54 年には 184、おったんですよ。今は何人ですか。で、議会でもそういうことを問われてるんで、どういう風にやったのっていうようなことを。それから、前回でも説明したところで、どう改善したのかっていうのも含めて、した方がいいかなと思って。本当、申し訳ないけど大量の時間を費やすかもしれません、これは基本的にはニーズ調査に合わせて、来年度、再来年度に合わせた形で説明をしていかなきゃいけないなと思ってます。以上ですが、どっちでしょうか。どういう風にやったらいいんでしょうか。

宮田会長：まず、先ほど言われた実績数の減少は、ここに才賀さんが書いてくれてるのは、幼稚園児の減少によるものではないかっていう質問が文章の中にありますよね。それではないということですよ。今言われたのは、時間が早くに、お母さんたちが迎えに来ているのではないかと、減少によるものではない、ということをはっきりしてるということで解釈してよろしいでしょうか。ちょっと私、現場の方もおいでだと思うので、一時預かりをされてるところは、おいでてないですね、今日はね。で、あいの保育園は、一時預かりはどういう形でやりましたっけ。延長保育ですよ。やってるのは。預かりはやってない。どういう風になってるんですか。やってるところは。あいのと、えだがわですね。そしたら、その、実務というか、されてる方はおいでてないので、お話が聞けてないですけど、このことについてはもう、減少によるものではないということと、今言われたのは、

早くお迎えが来だしたのではないかということですけど、才賀さん、それでよろしいですか。

才賀委員：ま、それでいかないと。押してくるんで。

宮田委員：はい。そしたら、また、この議題につきましても、もうちょっと、細部に渡って調査ができるようでしたら、今度の調査の時にも関わってくると思いますので、考慮していただくということで、先進めてよろしいですかね。はい。そしたら、次の質問になりますけど、よろしいですか。

才賀委員：すいません、本当に長々と私がやって。あの、すいません。次のやつに 発言要旨資料補足という部分の文章があります。それは、質問1から、質問5までを出しております。で、事務局にはこの質問事項についての付帯資料を必ずつけて、1番以外はつけております。で、なぜこういうことが僕の質問だったのかっていうことをしております。ただ、私自身すごい思うのは、いの町って、僕すごいいいところやと思ってるんですよ。だから、住みやすい場所では 確かに今年2番になったけど、全体的には去年、一昨年と3年続けて1番なっとったんですよ。いの町が。今2番ですから、ちょっと2番がいいかどうか別にして、やっぱり住みよい町だと私は思います。それともう1つは、やっぱり子ども子育て会議の中でもそうでしたし、やっぱり もう保育のホームページを、ずっとみんなのページ見ました。出てるやつについては。そうしましたら、やっぱり1人1人の子どもを大切にする姿勢のある文章がいっぱい出てきてるんですよ。で、そういう 園の紹介文ってないんですよ。他とこの地域が。あるかもしれませんが。全部見たって言われると、ちょっと辛いところですけど、 私はいの町のやつを全部見ましたところ、やっぱり1人1人の子どもを大切にする、自尊感情を生かした保育をするんだというその姿勢は素晴らしいと思っております。で、そういう中で、やっぱり、と、もう1つは、その、ここ数年間そうですが、妊婦健診事業についても、乳児家庭全戸訪問事業、養育支援事業、地域子育て支援事業は、私はすごいあの成果を上げてると思ってます。これが続けばいいなと自分では思ってます。で、そこで、あの、質問なんです。一応、あの一、私はそうなんですけど、 ニーズ調査もリモートの、この研修もそうなんですけど、事前に、こちらは、あの、 連絡がないんですよ、知らなくて。前年1回、七夕のように来てるんですけども、町の施設長寿命化計画の中に、来年度はですね、保育の予算の中に、保育施設の改善や防音工事ですとか、含まれているのでしょうか。 で、近年、私の記憶でなければ、天神保育園の改築事業というのは子ども子育てでは報告されていないんです。 で、これはこう伝達する必要はないんでしょうかというこの質問が1番で、2番目に、天神保育園のハンドボールっていうのが真ん中に、真ん中じゃないけど、大体ちょっと際にあるんですよ。 で、それは来年検討しますっていうので、去年のあの議事録から引っ張り出してですね、しました。そして、施設のホームページを探して、地図と、それから、50メートルって、本当に50メートルになるかなって

うことで、googleの地図を合わせて説明したつもりなんです。で、それで、あ、それでいいんでしょうか、と。で、今度の地震があった時には、液状化で上に上がらないような対策とか、そんなのはどうなってるんでしょうかっていうのが2番目の質問です。で、3番目の質問は、もうすごく具体的なんです。というのは、来年度と再来年度と、保育士の奪い合いが始まるんですよ。それを見込んで、今年度採用人数は何人で、退職者人数は何人で、来年度、看護師、そして会計年度任用職員の募集について説明してくださいという形で、1、2、3、4と書いてます。で、来年度の新規保育者と看護師の人数、退職者の予定の人数、そして、12月議会、高知新聞12月、あの山田議員の待機児童の項目の質問に対する回答はどうだったんでしょうかと。そして、いの町全体でやるよりも、定数じゃなくて、やっぱり地域別な、希望者に見合った、実態に合った対策が私は必要と思っております。それで、今回、事前に、事務局の方に、園別の実態の数値を書いてもらったのは、そういうためです。これで、後で数字をやって、率をしていかないとできないんで。それからもう1つは、先ほどもちらっと出ましたけど、伊野幼稚園はですね、昭和54年には186人だったんですよ。え、増築増築しながら。で、令和2年度は28人なんです。で、今何人ですかっていうことなんです。で、それはいの町議会で、井上委員の伊野幼稚園の運営のあり方に関する質問がありましたが、委員会としてはどのような対策をしていくんでしょうか。昨年も同じ質問したんですけど。え。そういうことです。それから、もう1つの5番、最後のやつが、これ、なかなかまだ情報としては出てないんですけども、こども家庭庁で、こども誰でも通園制度の創設についてどう思われてるんでしょうか、っていうことになります。で、この誰でもっていうのは、どこか言ったら、働いてなくても保育園に入れるっていうやつなんです。よ、これ、俗っぽく言えば。で、今度定数改正があるでしょ。だけど、0から3はまだ26年度からって言うんですけど。で、今対策してなかったら、今のニーズ調査どうなんのっていう、そんな不安でいっぱいなんで、すいませんが、ちょっと長く、多くの質問なんですけども、よろしくお願ひしたいと思ひます。以上です。あ、ごめんなさい。もう1つ、それ、あとね、子ども子育て会議の議事録のね、ホームページをね、ホームページにアップできませんか。高知市と高知県はやってます。議会の県議会、県の子ども子育て会議、支援会議って書いてますけど、もう1つは高知市の支援会議のホームで出してますが、これはなんか出したらあかんのですか。という風な質問を追加に入ります。以上です。

宮田会長：はい。今、才賀さんの方から、6個の質問が出ましたけど、事務局の方で順番にお答えできますか。

事務局：私の方から、順番がちょっと、飛び飛びになるかもしれませんが、回答の方をさせていただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。まず、お手元の資料、配布された資料で言いますと、その1ページの質問1の方からになってきます。その長寿命化計画による、といったその質問がそこからあります。保育施設の改築としましては、来年度につき

ましては、あいの保育園の改築事業を計画をしております。3月の定例会にその関係予算を、提出しようと考えております。子ども・子育て会議での、報告、伝達する事項としましては、この計画書をですね、計画書に記載している、表記している各種事業についての進捗確認等の内容がメインとなっておりますので、いわゆるこの長寿命化計画、あるいは、町の実施計画といった、その他の計画により進行しているものについては、報告等の、主題としては、していなかったところがございます。それから、次、質問の3の、2番目の、山田議員からご質問いただきました内容について、その回答の関係でございます。待機児童問題につきましては、一定解消されてまして、令和5年度のスタート時点である、4月の入園では、希望者全員が、いずれかの園に入園できております。ただ、その一方で、年度途中の、希望がありますけれども、その年度中の入園には、対応しきれないところがございます。本年度、その入園保留となっている人数は20名、という報告をさせていただきました。委員会としましては、これは、保育士の確保の関係で、確保できていなかったところがありましてですね、特に途中の確保が難しいところがございます。委員会としましては、その保育士の確保に向けて、より早期の募集等をしていきたいというような回答をさせていただいてるところでございます。(3)につきましてはの回答としましては、入園希望者数に対応した職員が配置される予定でございます。定員というのはですね、その面積やその地域の利用数等を勘案した目安と捉えておりますので、実際には、その入園希望者、希望数ですね、それに合わせまして保育士の配置を行っているところがございます。それから、質問4です。今の、幼稚園につきまして、教育委員会事務局としましては、幼稚園教育の充実に向けて取り組みを進めているところがございます。令和5年の12月議会におきましても、井上議員の方から、伊野幼稚園の運営のあり方についてのご質問ございまして、今後につきましても、幼少の連携によりまして幼稚園教育の、魅力化を図っていくとともに、預かり保育における預かり時間等についても検討していきたいという回答をしているところがございます。それで、最後に、質問がございました、ホームページで公開の、理由といったところがございますけれども、町の方にもですね、その会議録等について、公開しなければならないといった、そういった、条例等は今のところございませんで、現在、多くの、会議あるいは協議会というのが、いろんな形で実施をしておりますけれども、ホームページ等での公開というのはあまり行っていないのではないかなと思っております。子ども・子育て会議からの、議事録の公開といった、公開の要請と言いますかね、というお話でありましたらですね、この会議等でお諮りをいただきまして、公開した方が良いという委員さんが多数でしたら、個人情報等には留意をしながら、公開することは可能かなという風に思っております。私の方からは以上です。

事務局：はい。それでは、私の方から、質問2の方で、いただいておりますことについて、お答えをさせていただきます。質問2としましては、今、町内の、天神保育園以外の、園庭、運動場等にハンドホールがあるのでしょうかという点についてなんですが、まず、園以外の、

ハンドホールの有無についてですが、正確な所在をですね、確認するためには、各図面等を確認する必要がありますので、全て把握は、現在、ちょっとしきれてないところではありますが、現時点で確認をしましたら、各園庭、運動場において、ハンドホールが地表に表出して、危険な状態になっているとか、そういった報告、現状の方は、ございません。ご質問、ご指摘を、いただいております天神保育園のハンドホールにつきましては、今年度、ハンドホールの埋設工事を実施をしまして、対応を行いました。以前はハンドホールの一部が園庭に表出を、しておりましたが、現在は地中に埋設されている状況であり、安全面の方は確保されていると考えております。また、当該ハンドホールは、コンクリートで、施工された構造となっております。現在、地中に埋設されているため、地震に対しても影響はないものと、専門の設計業者からは伺っているところでございます。

事務局：私の方からは、質問3の(1)、来年度の新規保育者と看護師の人数、退職予定者の人数についてお答えします。正職の退職予定は1名、採用予定人数は2名となっております。会計年度任用職員の退職予定は5名、採用予定は、予算上で8名となっております。看護師の配置は、令和5年度が3名、令和6年度は4名の予定となっております。それから、質問5です。こども誰でも通園制度についてどうしていけばいいのでしょうかということですが、この通園制度ですけれども、現在の構想では、生後6カ月から2歳の未就園児のいる全ての家庭を対象に、月一定時間までの利用可能枠の中で、就労要件を問わず時間単位等で利用できる新たな制度であるとされております。こちらの実施につきましては現在検討中ですが、実施に向けては、保育士を増員する必要があるかと思えます。国の算出例を基に試算した結果では、いの町の規模では6人分ぐらいの枠を設けることが想定されますので、1から2名の保育士の増員が必要になると思えます。以上です。

宮田会長：はい。才賀さん。一応1から6までの答えは出ましたが。はい。他にそれに付随して何かありましたら。

才賀委員：2つばかりあります。1つは伊野幼稚園の対策は、去年も言いましたけど、そのままでいいんでしょうか。はっきり言って危険水域の人数なんです。で、この危険水域の人数ってどこから言ったら、本川が合併する前の人数なんですよね。幼稚園ので、吾北の時もそうなので、吾北幼稚園の時もこのぐらいの人数なので、逆に言えば、統合とか廃止っていうところの声が出てもいい時期なんですよね。僕は逆に反対する立場なんですけど、心配するのは、そこをどう盛り返していくかっていうところを去年言ったのに、今年も同じ答えですか。っていうのが疑問の1つです。それともう1つです。あの、今、確かに、こども家庭庁のやつなんですけど、今度、配置基準が変わりますよね。3歳児の人数、0歳児の受け持ち人数、4歳児、5歳の受け持ち人数が変わりますよね。それが25、26から始まるわけですよ。で、それに見合った今からの取り組みをしないと、特に、来年いのは、現在い

いかもかもしれませんが、途中から申し込む人については、保育士いませんからって言って断れるんですか。っていうところまで、毎年、毎年、あるもんで。で、今年は、去年は、今年多いなっていう風な感じの人数なんで、それはちょっと、やっぱり、意識的に、人数の。で、ここには出してますけども、他の市町村の、主な近隣の市町村の、人数の、入った、高知が、いの町は日給なんですよ。データ送ってますよね。日給のやつでやってるんですよ。市町村によっては、月給とかいうのがあるんですよ。それを合わせて、実際にほんだから、どういう形でその募集をかけてるのか、ハローワークに募集をかけたならそれで終わりなのか いうところが、僕はやっぱりちゃんとこっちから打って出ていかないと、他の同じことするわけですから、今からちゃんとした対策を打った上で、やっぱり本当、作ってるんですけど、出してあげばいいんじゃないかというのが私の考え方なんです。で、1つのやり方は、ハローワークだけではダメだと思うんですよ。他に やり方あるんじゃないでしょうか。1つはいの町のあのやつに毎号出すとかね、あの、あれ読んでるんですよ。俺、一応。読んでるんですけど、実に楽しいんですよ。だけど、そこがないのね。で、やっぱり募集するんやったら、ちゃんと募集していく。それから、去年よりか確かに1人増えてることは増えてるけど、またね、どっかで1人減ってるんですよ。全体では。そういう風な、こう各補充があるんで、そういう意味では、任用職員の方のやっぱり 待遇っていうのを考えていた時に、やっぱり今の日給制度でいいんでしょうか。それと、募集事項は、やっぱり各、あの専門学校とか、そこへ打って出ていく、あの、チラシを撒くとか、高知県教育委員会教育長がピラまいてるんですよ。で、教育長が、教員募集のためにピラまくなると、私たちは信じられなかったんですよ。だから、そこまで、やるとこまでもう追い詰められてる部分があると思うんで、それこそ、やっていただきたい方策が 多分あるんじゃないか。で、もしくは、その方策について事前に検討する。それからもう1つは、アンケートの 報告も、アンケートしましたってことで、前回はですね、アンケートの、えーっと、中身まで討論したはずなんですけど、今回はしてないんですね。ということは、アンケート用紙は配れるんですよ。ということです。で、そういうことをちゃんとやっていただいたら、私としては、すごく、もったいのの保育が良くなるんじゃないか、そして小学校も良くなるんじゃないかと思っています。以上です。

岡林委員：すいません、才賀先生の話、すごく面白く聞かせていただいたんですけど、このホームページなんですけど、ちょっと、いの町って、ホームページ、ちょっと弱くないですかね。今時というか、子育て世代は、基本的に情報はインターネットで見ます。ほぼ全員です。なので、才賀先生のアイデアいいんですけど、チラシを撒いて来るのは、多分50代以上、あの、正直。で、保育士、必要なのは、多分40代以下の働き盛りですよ。そしたらね、ホームページに、ぜひ、ちょっと、募集かけてほしいなど。私、よく、やっぱり調べたいことがあって、その、いの町のことで。ホームページ見ても、情報が古いんです、すごく。あの、移住してきた時はもっと古かったので、だいが、やってくれるようになった

なと思うんですけど、まだちょっと弱いですね。なのでここ、ちょっと、その、さっきの議事録の、条例がないからやらないってことだったんですけど、これは やった方が先進的です。で、やっぱり若い世代にも目に触れるっていうのはやっぱり大事なことなので、ぜひ、ちょっとこれは今後、ま、ホームページ課長じゃないけど、ちょっと、得意な方を採用するなりなんなり、それこそ、もう、なんですか、非常勤さんでも色々いると思いますので。

で、やっぱり、それこそ、東京とやり取りしてやっていくのに強い移住者もいるんで、ぜひ、そういう、こう、町に増えてきた財産を活用して、ホームページをちょっと強化してくれたらなっていうのは、すごく思います。以上です。

中野委員：その、さっきの話聞いていて、ちらちらと、50代以上っていう話が岡林さんからあったと思うんですけど。いの町は、給食センターが、SNS やってますよね、インスタで。正直、いいね数とフォロワー数は少ないとは思うんですけども、いいねもフォローもしないけれど、実際に、あの、SNS を見てる人とか、知っている人はいると思うので、その辺りのことも考えていただけたらなと思います。

岡林委員：私も、インスタ、もちろん SNS 世代なのでやってるんですけど、今、初めて知ったんですね。で、インスタって、ちょっと、タグ付け しない、しても、ちょっと、拡散力が若干弱い。なので、でも、いの町のインスタはもちろんフォローしてるんですけど、その、いの町の、それこそ、SNS で、いの町関係のインスタなり、なんかリンクなり、紹介なり、もうちょっとしてくれると助かります。

宮田委員：よくわかります。あの、これは、何課がやるんですか、ホームページは。例えば、今日の子育て会議の分を アップしたいと思ったら、どこの部署へ持って行ってやるのか、自分とこで勝手にできるのかっていうのはわかりますか。

事務局：はい。いくつか、ご質問とかご提案をいただきまして、回答になってるのかどうか、分かりませんが、お話をさせていただきたいと思います。まず、才賀先生のご質問の中にまずありました、その伊野幼稚園の魅力化といったところでございます。そこに関しましては、うちとしては、預かり保育とか、その時間について、検討したりとかいったところで、考えられる範囲で、魅力化を図っていらっしゃるところでございますけれども、また、こういった会議もございます。また、それ以外の時にでもですね、こういうことは、どうやろうかといったような、そんなご提案等もいただけたら、非常に、ありがたいと思います。そういったところで、また、それを検討して、魅力化につなげていけたらという風に、考えております。それから、ホームページが、弱いと言うんですか、ちょっとありました。これ、あの、長年

の課題でございます。移住をされてこられたということで、その当時から比べたら、少し、ホームページとかも改良してきて、また SNS の発信というのもやってたところですけど、管理が、ま、ちょっと昔の話なんですけど、そういったところを集中的にやっていかないんねといったところで、総合政策課というような課もできて、そこに情報担当という職員も、置くような形になってきました。これらの、いの町の流れとして、そういった中でもですね、そういったご意見があるというのは、真摯に受け止めまして、ホームページっていうのは、その、情報が、まあ言ったら早くないといけませんよね。常にこう、更新していくようなところ。それから、当然、その、ヒットすると言いますかね、原則で、こう、上に来るようなとか、あるいは、SNS の方も、そういったいろんな、情報の発信を利用して、今ほとんど情報発信の主流はそれですので、そういったところは強化していかんといかんのかなと思ってます。で、例えば、お話になりましたように、その給食センターの、毎日の給食っていうのは、実は、あげるようにしてます。で、給食センター、インスタ作っていただいたら出てきますけど、ま、100 人ぐらいしかフォロワーいないんですけど、今のところ。まあ、毎日こんな給食を食べてますよというようなところは、確認はできるようになってます。そういったいろんなその手段を、今使って、発信というのはしていています。で、そういったところも、それは、給食センターで、直接こうダイレクトで上げれるような形になってるんですけど、一般的には、こういった会議録をこう挙げるということになると、うちの方から、業者さん、ベンダーさんがおりますけれど、そちらの方にも 内容をアップして、で、そちらの方で対応いただく。当然、そういったところには総合政策の ID とか、必要になってきますけれど、そんな形で ホームページへの更新というのをかけています。いずれにしても、その、幼稚園の、職員の募集ですとか、そういったところは、紙ベースの手段であったりとか、あるいはその、専門学校とかですね、そういったところへの働きかけとか、あるいはそういったホームページとかでも、いろんな形でこう、発信をしていかなければいけないという風に思っております。以上です。

宮田会長：ありがとうございます。よろしいですか。他にご意見はありませんか。ちょっと私も思うんですけど、本当に幼児教育が要というか、幼児教育の時に 体験とかいろんなことが、もう大人になるまで、かわる、悪いことも、いいことも、吸収していく時期であるので、環境的にもすごく、いの町は、子育てががいいっていう風に言われてる中で、できるだけそういう発信をすることとか、それから、保育園さんの方にちょっと私も評議員の方で出してもらった時に、保育士さんが足りないということで、こうやったらいいよね、天王で誰か辞めた人とか退職した人か、おらんのかねとかいうことで、人海戦術じゃないけど、それと、やっぱり、今年卒業する、保育士さんになる人のところまで行くとか、 やっぱり、そうやって足もつかってみんなで探すっていうことはしました。だから、そういう、チラシもそうだし、その、あれもそうなんですけど、やっぱり探そうという意欲っていうのは、それぞれがやっていくのが、大事なかなと思います。そしたら、この、第 2 期の方は、これよろし

いでしょうか。よろしいですか。はい。

才賀委員：あの、すいません、確認なんですけど、ニーズ調査は、今やってる最中ですよ。で、その、ニーズ調査の、文面と、あのやつを、データを渡していただけないでしょうか。前のやつと比較ができますので、その時は私も勘でやってますので、その、3年、3回ほど前からずっとそれにかんでやってますので。その、地域調査についての。あのー、まだ出して。出したんでしょ。ということは、その、分析の仕方のやつを、ちょっと質問したいんで、原文がないと数字を取れないんで、で、すいませんが、それ、そのことは オッケー。えー、配布していただけるでしょうか。そうしますと、次回の時に、この問題が、あの、話し合いの結果でしたっていう、論点になりますので。それともう1つが、さきほど言いましたことなんですけども、園評価の、あのやつが、去年は出てますけど、今年出てないんで、ぜひとも今年の分を出していただきたいなと思っています。以上です。確認です。

宮田会長：はい、事務局。

事務局：子ども子育て支援事業計画のニーズ調査についてですが、先ほど、才賀委員さんの方からもありましたように、ニーズ調査の方は行っておまして、今年度、ニーズ調査の委託をしている業者の方に、回収したものを、お渡しを今している状況です。また、来年度はですね、昨年の年度になってきますので、また、その結果の分析であるとか、そういったことをまた来年度の会議の方でお諮りを、報告もしながらですね、していくことになるかと思えます。で、そのニーズ調査につきましては、また別途、各委員様の方にお送りをするような形を取れるかと思えますが。はい。

才賀委員：ごめん、データで、くれません。あ、全部ね、あの、ここのやつを全部読み取ってるんですよ。それにね、1日ぐらいかかるんです。で、あの、今回のやつも、慌てて金曜日に来たやつを、あ、木曜日やったと思うんですけど、来たやつデータの全部、スキャナーで読み取って、数字を拾ってみて、あ、違いがわかったわけで、ニーズ調査もですね、できたらデータでくれたら、後の処理がしやすいんです。また、いちいち全部、読み取ったら間違いが多いんで、できたらデータはダメなんでしょうか。

事務局：はい。それでは、PDFの形式の方でお送りができるかと思うんですが。

才賀委員：すいません。PDFでもね、2種類ありましてですね、読み取りのデータと読み取れないデータがPDFであるんですよ。あの、全部やっていますから。そうしますと、読み取れないやつはまた同じことなんですよ。紙ベースと一緒になんです。で、もう1つは、PDFのデータ多いんですよ。だから、テキストファイルで欲しいというのが正直な点なんです。

事務局：はい。先ほどの、ニーズ調査の件ですが、先ほど、回答させていただいたように、別途お送りすることは、させていただきます。それから、データにつきましては、すみません、ちょっとその形式について少し確認、させていただきたいと思いますので、またその件については才賀委員の方に個別にご連絡させていただいて。

才賀委員：前これやったんですよね。これが1番使いやすいんです。で、そうすると、どこかと比較できるので、これを比較していきたいなと思ってるんです。

事務局：あの、すみません、データで、欲しいという委員さんについては、また、後で言うていただけたら、対応するようにします。それ以外の委員さんには、紙ベースの送付を別途するというような形でお願いしたいと思います。

宮田会長：はい、それでよろしいでしょうか。そしたら、議事次第の1についてはよろしいでしょうか。1つだけ。ファミリーサポートセンター事業で、令和4年度の実績が130で、計画見込みが100っていうのは、実績が150で増えてるということですよ。少しずつ、ファミリーサポート事業というのが、利用度も高くなって、ということよろしいですかね。はい。まかせて会員さんと、おねがい会員さんの割合で言ったら、足りてますか。預かる側の方の会員さんって増えてますか。

事務局：はい。人数につきまして、少しお待ちください。

宮田会長：西内さんが、やられてるのはどういう。

西内委員：あ、いや、去年1年間はね、ちょっと私、母の介護とかありまして、できなかつたんですけど。その前はやってましたけどね。

宮田委員：それはどっちの、えっと、どういう。子どもさんのお迎え。

西内委員：[REDACTED]学校から帰ってきて、バスで帰ってきて、それを僕は家の前で待ってて、家の中に一緒に入って。お母さんが5時ぐらいに帰ってくるんですね。それから、あの、プール行くんで、それまで、僕はずっと。宿題みたいなのも、やってましたけどね。その子は、もう、高学年になったんで。去年の初めに、朝と、それから夕方、幼稚園に送っていくのと迎えに行くのと、やってくれませんか、言って、[REDACTED]から言われたんですけど、ちょっとその時に、母が具合悪なりまして、で、帰る必要があったんで、ちょっとできなかつたんですけど、まあ、またぼちぼちやろうかなって。

宮田会長：わかりました。

事務局：すみません、遅くなりました。令和6年1月末現在の会員数につきましては160人でして、そのうち、おねがい会員が117名、まかせて会員が40名、どっちも会員さんが4名というような状態になっております。で、やはりあの、おねがい会員さん117名と多いんですけども、これはやはり、何かあった時に助けてもらいたいってところで、今実際とても困ってるっていう方だけではないと、やはり、そういう、予防的のところ、会員になっていただいている方も少なからずいらっしゃるような状態です。で、実働会員数につきましては、おねがい会員さんが今17名で、まかせて会員さんが14名というところで、なんとか、つながっているというような状態にはなっておるところです。で、いずれにしても、会員数につきましては、前年度よりかは増加しているような状況でして、実働会員数の、前年度に比べると増加しているような状況にはなっております。以上でございます。

宮田会長：いいですか。

山崎委員：すみません、えっと、ファミリーサポート、私は利用してないんですけど、割合的に本川、吾北、伊野で、言ったら、やっぱり伊野が多いですね。

事務局：おっしゃる通りでして、ほとんどがもう伊野地区の方になっております。で、その辺りにつきましては、色々、先ほども申し上げましたが、乳幼児検診とかそういったところで、ご案内とかさせてもらっているところではあるんですけども、やはり、伊野につきましても、おねがい会員よりまかせて会員の方が圧倒的に少ないような状態です。で、かつ、吾北とか本川になるとなかなかその負担が大きいとか、そういった、預かり慣れていないとかいったようなところもあって、なかなか、課題としては捉えておるんですけども、具体的なおところには至っていないというのは現状でございます。

宮田会長：ありがとうございました。

吉松委員：私も1つ、ファミサポさんのことなんですけども、人数のこともきつとあるんですけども、ちょっと支援がとてこう必要な子どもさんがファミリーサポート行きたいっていうちょっと声がありまして、なんかその、見るのに、大変、1人だったらおトイレに行くのもちょっと厳しいって子どもさんが、例えば預けたいっていうこともこれからあると思うんですね。██████████ 預けたいんだけどなかなかこう見てもらうのが難しいって、なんかそういうところも違いがあるんじゃない

かなと思っていて、お母さんが、あの、見れるんだったら見たいんだけど、見れないから預けたいってところもあるので、やっぱりそういう子どもさんをこれからどうやって見ていくのかなってというのは、直面してる課題なんじゃないかなっていう風に思っていますよね。質問というより意見なんですけど。

中野委員：すみません。入児家庭全戸訪問事業についてなんですけれども、今年度実績見込みが、77っていうことなんですけど、これって、全戸訪問事業ってことなので、多分100パーセントが理想やとは思いますが、この77って実際、えっと、パーセンテージ的に言うと、こう、どのような数字というか、と捉えればいいのでしょうか、教えてください。

事務局：基本的に、4ヶ月ぐらいまでの間に、全戸訪問なので、出生されて4ヶ月ぐらいまでの、全員、訪問してます。今のところ100パーセント。ただ、時期的にちょっとずれる場合もありますけれども、やっぱり基本的に、コンタクトを取って、訪問するように。

中野委員：コロナとかで、こうね、できなかった時期があったとは思いますが、今はもう大体コロナ前と変わらないような状態で、ほぼ100パーセント。はい、ありがとうございます。

事務局：少し違うんですけど、その今 出産子育て応援ギフトって言って、妊娠届を出して、5万円。で、子育てなので、次、出生届を出して5万円っていうのがあるんですけど、それもあの伴奏型支援ということで、この5万円を申請するには面談で。訪問して、面談してということになります。

中野委員：ありがとうございます。

山崎委員：私子どもの時って、もうみんな一まとめで教育してもらったんですけど、やっぱり今支援の方、子どもさんも増えてきて、実際先生が足りんっていう現場の声もあるので、本当、人員確保ね、厳しいと思いますが、力入れていただきたいです。

宮田会長：はい。そしたら、これで、えっと、次に進んでよろしいですかね。はい。では、事務局の方に。理事次第、3、その他についてというのをお願いいたします。

事務局：資料2の保育所の利用の変更についてという資料をご覧ください。

令和5年度に3カ所の保育園の利用定員の見直しを行い、県に届け出を行いましたので、ご報告します。まず、神谷保育園はすでに0歳児の受け入れを行っておりますので、実態に合わせて0歳児の定員を3人に設定し、1、2歳は11人、3から5歳は16人とし、合計は変

ならず 30 人となっております。次に、あいの保育園ですが、令和 5 年 10 月 27 日付で、社会福祉法人はってん福祉会より、子ども子育て支援法第 35 条第 2 項の届け出があり、定員を 120 人から 110 人に変更した旨の報告を受けたものです。最後に天神保育園ですが、新園舎の運営が始まった令和 4 年度以降、入園児数が増加しているため、実態に合わせて定員は 90 人から 110 人に見直しを行うものです。続きまして、第 3 期いの町子ども子育て支援事業計画についてご説明します。

事務局：第 3 期いの町子ども子育て支援事業計画についてですが。特に、資料の方はお配りはしていない件になります。先ほど、議事の（2）の方で、教育長の方からも、挨拶の中でありましたように、3 回、この子ども子育て会議を予定をしておりますので、その中で、ニーズ調査の結果の分析、それから計画の素案、ま、そういったものをお示しをしながら、委員の皆様から、ご意見をですね、いただきたいと思っておりますので、またどうぞよろしく願いをいたします。以上です。

宮田会長：はい。事務局の方から、3 番、その他について、ありましたが、ご質問とかご意見とかありましたらお願いいたします。ないようでしたら、今日の会議を通して何か言い足りないこととか、聞いておきたいことがあれば。才賀さん。はい、どうぞ。

才賀委員：あの、1 番僕が言いたいのはですね、この子ども子育て会議が楽しくなるようにニーズ調査も前向きで提案しようと思ってるんですよ。だけど、なかなか、それがうまくいかないで。ですので、時期的には、前もそうですけど、来年度は本当早めにやっていただきたいなと思って。前の時にですね、パブリックコメントを 2 週間にしたんですよ。んで、出したのは私ぐらいじゃなかったかなと自分では思って、それはどうか言ったら、議事録に載った文章そのまま訂正に出したら、そのまま通ったんで、あ、そうか、議事録っていうのは 適当にできるんやなとあの時思ったんですよ。で、そういうことを考えた時に、今の計画からすれば、せめて 6 月議会が終わった後ぐらいに 1 回やっていただかないと、この順番で 3 回は行かないだろうと思ってます。というのは、12 月の初め、中旬にはパブリックコメントを出して、それで承認という形で出さないと、パブリックコメント 2 週間で出てこないって ホームページ見ませんからね。で、そういうことも含めて、すいませんが早めな会議。そして 1 つは、みんなで、保育者を増やすためにどうしたらいいかっていう、そういう議題にしてもらいませんか。1 つ項目入れて、そして保育園が楽しくなる、幼稚園が楽しくなる話を出してみても、それから始めていったらいいんじゃないかと思っております。これは願望でございますので、無理なら仕方がないけど。

宮田委員：はい、以上でいいですか、何か。あ、どうぞ、

西内委員：給食センターの、インスタのフォロワーとして。そろそろなんか、例えば、食べた先生や子どもの感想の動画とか、そういったのもあげていただくと、うん、楽しみが増えます。

岡林委員：給食につきましては、うちの我が子、XXXXXXXXXX食べておりました、まー、厳しいコメントが多いということでございます、実は。やっぱりね、いっぺんにたくさんものを作るっていうのは大変だなと。やっぱりね、揚げ物とかが、まあ、ちょっとべちゃべちゃすぎたりとか、なんか味にすごくばらつきがあったりとか、給食のおばちゃん、足りてるんだろうか、果たして、っていうのは、私はちょっと常々思っていて。なんで、ま、でも、そういうね、なんだろう、こう、どうなってるの。とか、あの、足りてんの。とか、実際、あの、働く人いたら、募集とか、そういう、ちょっと幅広く、インスタ使ってもらえたら、まあ、もうちょっといいんじゃないかなと思います。

西内委員：運んでるところのトラックとか。そう、そういったのも。はい。単なる1ページだけでなく、2ページ目に作ってるところとか、写真でいいですけどね、あるいはトラックで運んでるところとか、そういったところがあれば、あの一、面白いなと思いますけどね。1つの1ページがゴボツとあっても、うん、まあ、一応いいねは押しますけど、そろそろね、それもしていったいい。

岡林委員：厳しいことを申し上げますと、やりましたという証拠作りだけではなく、みんながもうちょっとフォロワーが増える、この、努力というか、ま、努力も難しいんですけど、どうやったらいいかって、本当に難しいので、なんですけど、ま、あの、こう、頑張ってもらいたいと思います。よろしくお願いします。

事務局：給食のインスタを、今年、実は、去年ぐらいから、ちょっと話をしよったんですけど、やろうかって、私の方から言って、給食センターが、それに答えて、やってくれてるんですけど、こんなに、色々ご意見いただけると思わなかったです。貴重なご意見、ありがとうございます。今、本当に、給食をポンと写してるだけなので、作ってる風景ですとか、運んでる風景、貴重なご意見いただきましたので、可能な限りやってみたいと思います。給食に対して、ちょっと厳しいご意見もいただきましたけれども、貴重なご意見、ありがとうございます。実際のところ、給食センターの調理員というのも、人手不足と言いますかね、確保に苦労してます。保育士と一緒に。重要度が高いところもありましてですね、そこは、一生懸命探しているところです。できるだけ、美味しい給食、安全、安心な給食を作るように努めております。また、いろんなご意見いただけたらと思いますので、よろしくお願いします。それと、来年度の、その、子ども子育て会議の、運営につきまして、1年間の、全体的なスケジュール感っていうのをですね、こちらの方でも再確認しまして、そういった中で、

まとめにつきましては、2週間というのは確かに短いと思います。そうですね、まあ、1ヶ月弱ぐらいですかね、そういったところを、逆算して、どういった会議の段取りになるのかというのを、ちょっと計画的に、実施をしていきたいなと思っておりますので、また今後ともご協力よろしく願いいたします。

倉繁委員：先ほど、会長さんが、子どものその、育つ家庭において、保育園時代と幼稚園時代が1番大切だということをおっしゃったと思うんですけど、本当にそうだと思います。多分、今、保育園と幼稚園、非常に大変な状況にあります。というのが、皆さんご存知だと思いますけれども、最近、こう、気になる子どもも非常に増えてます。で、目が離せないような、これ数から言えば少ないんですけど、そういう子どもさんについては、本人にこう、危険性があるので、1対1の支援の先生をつけないと危なくってしょうがないというのがあるんですね。で、そういう子どもさんはもう数が少ないんですけど、だけど、他に、ちょっと気になると。目は離せない、つきっきりでなくていいけれども、とにかく気を付けて見ておかないと、どうなるかわからない、他の子と喧嘩をするというような子どもさんの数が非常に多いです。どのクラスでも1人や2人じゃありませんので、それで、すごい保育園、幼稚園、苦勞されてます。で、その、今、一生懸命、あの、来年度の加配の先生を申請するのに、今年暮れから、いくつも診断書を書きました。この子は加配が必要ですよ。で、つきっきりじゃなくてもいい子どもさんについては、注意深い見守りで、なんとかやれると。で、極端な子どもさんについても、この子どもさんも、1対1でないと、非常に危険があると、もう書きます。それで、多分、5、6通書いたと思うんです。で、そういう子どもさんがいるんですけど、園の先生が足りないんで、何人かの子どもさんのところで、先生1人が何人もの子どもさんを見るっていうのは、これはもう不可能なので。そういう、それが現状です。で、先生方も非常に気を付けて、なさってます。見ててそう思います。だけど、物理的に、もうこれは人間が増えないとやれないことなんですよ。で、それともう1つは、その園長先生なんかとお話ししますと、保育士さんが足りない。1つは保育士さん。現状で保育士さんが足りないから、現場で働いてらっしゃる保育士さんに非常に負担がかかってるんですよ。で、そのために、1つの職業病みたいな、腰痛があるんです、小さい子。で、そのために、非常にね、熱心で、この仕事したいけど、もうそういうために辞めないと、という方が結構何人もあるということなので。その保育士さんを募集するのは、それは必要だと思います。だけど、今実際に働いてる人たちに、いかに仕事がもう少し楽になるかというような対応、人がとにかく足りないんですね。それで、今、放課後保育ですよ。時間延長保育をしてるのが日常。あの日勤の先生がつきっきりというわけではありませんから、その時間帯にパートの先生がこう来られるんです、現に。そうすると、子どもさんにも、担任の先生には慣れてるけど、先生が変わるともう大変、慣れてないからそこから大変が始まるとかいうことも結構起きてます。それもやっぱり人が足りないんですね。しかもその時間外の先生が2人変わったりすることもあるんです。その時、1人だけが見る

んじゃないくて、先生が途中から変わると いうようなこともあるというので、子どもにしてはちょっと非常に大変な状況が、結構あってます。ですから、その、簡単だとは思いませんけれども、その保育士さん、なんとかして増やしていただきたい。多分1番コストの問題だと思うんです。お話聞いてると。今非常にこの介護職員、それから保育士さん、非常に問題になってますけど、やはりお話聞いてると、もう少しコストが上がればそれでも頑張れる人がいるんじゃないかという風な、結構多いので、やっぱりあの、こういう金銭の問題になるとそんなに簡単なことではないと思いますけれども、それでもここをなんとかしないと、おそらく。それで新しく来られた保育士さん、結構辞めるんですよ、しんどいから。だから、そのこのところ、ずっと続けていただくためには今の現状ではとても無理だというのが、こう、園へ行くと思います。で、そのやっぱりあの、手のかかる子どもさんが結構多いんです。で、幼稚園、保育園の時代になんとかその対応すると少しは卒業するまでに落ち着くんですけど、それができないままに小学校に行くと、小学校も特別支援級へ行くか、そうでなかったら普通教育と加配はつかないんですね。特別支援教育支援員の先生、それとお勉強を見る先生はつくんですけど、それもその、その時間にその子どもさん1人という形なので、非常にこう不利があるのも現実なので、そのあたりのことをなんとか今の保育園、幼稚園、もう少し あの先生たちが働きやすいようにしていただくことが必要なと、そう思います。

宮田会長：倉繁先生の方から貴重なお話をしていただいたと思います。今、才賀先生も言われたように、また3回会議をされるということで。今言われたみたいに、何かの、議題を決めてとかでなくて、やっぱり子どものことについて、井戸端会議ではないですけど、いろんなものをこう出し合っていて、その中でできることを1つずつ見つけていくっていうのは大事なことだと思います。会の3回だけというわけじゃなく、そういう子どものことについて、いろんなこう、知識のある方とか、それから現場で働いてる方たちの生の声っていうのを聞いていかないといけないんじゃないかなと私は常々思ってるんですけども。ぜひ、職場の方、あの、働いてる人たちの中でも、こういうのはちょっとというのはもうあげていくっていうことで、ちょっと私も保育園の園長と関わった時に話したのは、今の若い人は、お金は、例えば月収がなんぼというよりは、自分の時間が欲しい、あの、働くより、休みが欲しいっていう、そういう、ちょっとその、お金だけではなく、その時間、自分の時間が、という、今までの働き方とはまた違う感覚の働き方を求めている方たちもいるので、そういうところなんかも色々今の時代に合った働き方っていうのもまた求められているのではないかなと思いました。はい。あの、事務局の方もよろしいですか。はい。そしたら、これで。質問も終わったということで。以上令和5年度いの町子ども子育て会議を終了したいと思います。皆さん、お疲れ様でした。ありがとうございました。

20：30 終了